

授業科目名	海外研修C (Overseas Study Program C)	担当教員	募集時に決定
開講年次・学期	医学科1-6年、看護学科1-4年・通年	必修/選択	自由
開講形態	実習	時間数/単位数	医学科40時間・看護学科1単位
学習目標			
<p>本研修は、医学部が主催する「海外研修A」, 「海外研修B」以外で、学生が自主的かつ主体的に行う医療に関する語学学習や語学研修や体験を主たる目的とした40時間以上の海外研修プログラムです。海外の教育機関、医療施設・研究所等で医療に関する語学研修、体験学習、施設見学を通じて海外における医療制度や体制について学ぶとともに、様々な異文化体験を通じて、医療人としての視野を広げ、国際性を養うことを目的とします。</p> <p>*本科目は医学部の英語教育高度化プログラム「Advanced English Skills Course」の対象科目です。在学中に本コースの科目群から合計120時間（看護学科3単位）以上履修した学生には修了認定証（Certificate for Advanced English Skills）が授与されます。</p>			
ディプロマポリシーとの関連			
<p><医学科> 4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。 12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。</p> <p><看護学科> 1. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。 6. 社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。</p>			
学修成果（到達目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の地域医療・家庭医療について学ぶ。 ・海外の保健制度について学ぶ。 ・海外の医療教育機関や施設の見学を通じて、医療に関する知識や視野を広げる。 ・異文化交流体験を通じて、語学力と共に国際性を養う。 			
キーワード			
英語コミュニケーションスキル、専門（医学・看護）英語			
授業の進め方			
<p>海外研修C申請書及び添付書類を渡航1月前までに学務課教育改革・教務室に提出する。企画前であっても学務課教育改革・教務室で相談を受け付ける。 学生が主体的に企画した申請書（計画書）は事前に教務委員会で審査する。 審査項目は次のとおり： ・研修目的、内容、期間、時間数 ・受入機関の体制（施設・人員等） ・安全確保と緊急時の連絡体制（渡航先の安全確認、安全教育、海外旅行保険加入、緊急時連絡網等） ・事前研修（安全教育等）、事後研修（報告書、報告会）の計画</p>			
評価方法			
審査で「海外研修C」に該当する研修と判断された場合、研修実施後に報告書を提出すること。提出された報告書を教務委員会で審議し、「海外研修C」の単位を認定する。			
合否基準			
事前指導，事後指導，研修報告書により評価する。			
教科書・参考書			
オフィスアワー			
本研修に関する問い合わせは国際交流推進室まで。			

コア・カリとの関連

<医学科>

A-4-1) コミュニケーション

- ① コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
- ② コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
- ③ 患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。

A-7-2) 国際医療への貢献

- ① 患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。
- ② 地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。
- ③ 保健、医療に関する国際的課題を理解し、説明できる。
- ④ 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。
- ⑤ 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。

<看護学科>

A-4-1) コミュニケーションと支援における相互の関係性

- ① 看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解できる。
- ② 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について説明できる。
- ③ 自分の傾向がわかり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションをとることができる。

A-7-3) 国際社会・多様な文化における看護職の役割

- ① 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解できる。
- ② 多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な能力を理解できる。
- ③ 国際社会における健康課題と戦略を理解し、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる。